

会派の意見

6月定例会を振り返って

自由民主党・中道の会

「自由民主党・中道の会」は改選を経て、竹村邦夫（代表）、和田勝美（副代表）、清水おさむ（幹事長）、吉永哲也（政調会長）、戸田二郎（顧問）、氏原嗣志（顧問）、平田文彦、浜口卓也、高橋裕忠、横山公大、甲木良作、大田芳男、上田亜矢子、藤川裕介の14人の構成員で新たに結成しました。

また5月に開かれた議会の構成を決めるための組織議会において平田文彦が第116代議長に選出されました。

我々の目的は、議会活動を通じて、市民が安全で快適に暮らせる生活環境、企業や諸団体が自由な発想で積極果敢に挑戦できる事業環境を、ハード、ソフト両面で整備、改善していく、また地域社会の持続発展と並立可能な範囲内で個人の自由を最大限尊重する政策、施策を推進し、もって住民福祉の向上を実現することです。

また、行動目標として、本議会が政策、施策や予算を執行する市長をチェックする機関であること、私たちはその一員であることを深く自覚し、行財政運営の適法性、公正性、透明性、効率性、効果性を日々監視する、議案等に対しては徹底した審議を行い、採決に当たっては原則として全体最適を判断基準といたします。

それぞれの構成員が持つ得意分野を最大限に生かし、会派内で情報共有・研さんを重ねてまいります。そして積極的な政策提言と情報発信を行うことにより、所記の目的・目標の達成に果敢に取り組んでまいります。

市民クラブ

6月議会では、諸物価の高騰に対応するための補正予算案が提出されました。これに関して、市民クラブは議会前に「緊急予算要望書」を提出。補正予算には、要望をしていた「農業用資材や飼料、漁業用燃油緊急対策費、学校給食費や保育料・副食費の負担軽減、高齢者・障害者施設等の物価高騰対策費等」が盛り込まれ、多くの会派の要望が反映されていました。意見書議案では、市民クラブから厳しい財政状況を鑑み、「地方

財政の充実・強化を求める」意見書を提出しました。

改選により、市民クラブに伴・楠目両議員が加入し、7人で活動します。高知市は、財政健全化や地域経済の活性化等の多くの課題があります。引き続き「生きづらさを抱える方たち」の声をしっかりと受け止め、市政の場への発信、政策提言につなげていきます。

公明党

物価高騰による影響への支援策

統一選後初の議会は、物価高騰による家計支援など市民生活に関する取り組みが示された議会でした。その財源は、国からの交付金であり、市民にとって有益で公共の福祉に資するものとして使われなければなりません。

今議会示された3歳未満児の保育料や副食費、放課後児童クラブの保護者負担金など臨時特例的な免除であったとしても、子育て中のご家庭の経済的負担軽減に繋がるものと判断しています。公明党がこれまで求めてきた認可外保育所の副食費免除は認可施設と同様に負担軽減が図られるものです。今後公明党は、市民の皆さまに寄り添った政策提言を行ってまいります。

日本共産党

切実な市民要望に応えた物価高騰対策などの補正予算に賛成

改選直後、会派として市長に、

①学校給食費、保育料・放課後児童クラブ等の保護者負担の軽減、
②事業者支援として農林漁業の燃油や飼料代への支援、③非課税世帯等への給付金の申請手続きの改善などを要望していました。予算案には、要望が一定程度取り入れられており、事業者のコロナ融資の返済支援も評価し賛成しました。

6期目の挑戦を表明した市長に、中学卒業までの子ども医療費無料化の実現を求め、「課題である財源のメドを付けていきたい」との前向きな答弁を引き出しました。マイナ保険証問題で、保険証廃止の延期を求める意見書を提案しましたが、否決となりました。

参政党

このたび、参政党のお力も得まして12年ぶりに議会に復帰することができました。新庁舎となって前回と趣が違ってはいますが議員の果たす役割が変わりはありません。永い医療・福祉の経験を市政の場に反映させて参ります。また、参政党の知名度アップにも努めます。